平成３０年度　学校評価　パワーアッププラン

学校名	丹波市立南小学校

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
自分や友だちのよさに気づき、夢を求めて自ら学び続ける子の育成 ～　学校・家庭・地域の連携による基本的な事が確実にできる力を基盤に　～ ・地域・家庭とともに自己肯定感、自己有用感の育成を図る ・ふるさと教育を軸にキャリア教育を充実させる ・授業改善により誰一人も見捨てない教育を展開する	1「子どもは地域の宝」を合言葉に、学校・家庭・地域の協働体制を整え、相互の絆を深める。 2 ふるさと教育と認定こども園・小・中の連携を大切にした教育課程を編成して実践し、学校の情報を積極的に公開する。 3 児童一人一人の教育的ニーズに応じ、「わかった・できた」が実感できる授業づくりを行う。 4「いじめ・暴力ゼロ」の取組と違いを認め合う共生社会をめざす人権文化の発信基地となる。

○自己評価　　**○学校関係者評価**

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み	自己評価の各観点に対する評価
学校運営	開かれた学校づくり	・積極的な情報発信 ・オープン参観日等の実施 ・アンケートや学校評価の公開	B	・校報、学年通信、HP で、積極的に情報発信をする。 ・参観日等に多くの方に来校していただけるよう、防災無線やポスター、メール配信等でアピールしていく。 ・オープン参観日等に感想を書いていただいたり、学校評価アンケートを行ったりし、今後の教育活動に生かす。 ・アンケート結果や学校評価結果を公開し、説明責任を果たすよう努める。	校報、学年通信、HP で、積極的に情報発信をしていることがよく分かる。特にホームページについては、更新回数が　　回となっている。コミュニティスクールに向けて地域、保護者の意見を十分にいかそうとさている姿勢も大切であると考える。今後の会の運営にも注目したい。
	生徒指導の充実	・あいさつ運動 ・共感的な児童理解 ・基本的生活習慣 ・いじめ・暴力ゼロ市民運動の推進 ・不登校対応	A	・全校児童のふれあいや関わり合いの輪をつなぐ「あいさつ運動」を児童会の活動や月目標として設定して継続して進める。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣について、生活改善週間を通して家庭と連携しながら取り組む。 ・学期に１回ふれあい月間を設け、いじめアンケートや面談を通して共感的な児童理解を進める。 ・いじめ・暴力ゼロ市民運動の一環として、積極的にいじめ問題に取り組み、指導していく。また、道徳科や情報教育と関連させ、学年に応じた情報モラルに係る指導に取り組む。 ・不登校傾向の児童への対応については、毎朝のあいさつ運動を継続し、担任や関係機関等と連携し、本人や保護者の思いを大切にしながら支援を進める。	問題行動やいじめ事案、不登校の指導に尽力さている様子がよく分かる。この教育に関しては、未然防止の観点が特に大切であると考える。そのために取り組まれている「あいさつ運動」や「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣づくりから人権を大切にする意識の醸成に至るまで多くの取組となるが、一つひとつを丁寧にやりきることが成果につながると考える。 また、地域や家庭の協力も今後始まる学校運営協議会を活用し、子どもたちのために力をあわせていくことが望まれる。
教育課程	創意と活気ある教育課程の実施	・体験活動の充実 ・たんばふるさと学の推進 ・キャリア教育の推進	A	・学年の実態や学習内容に応じて、ゲストティーチャーを招聘した授業づくりに努め、体験活動を取り入れる。 ・「学校支援コーディネーター」と連携し、地域の教育資源の持つ価値に気づき先人の偉大さを学ぶ学習活動を取り入れることによりふるさと沼貫への愛着と誇りを育てる。 ・将来の夢や目標を求めて学び、自立した人づくりにつながるキャリア教育を、ふるさと教育や体験活動を通じて充実させる。その活動の記録としての本校独自のキャリアノートを作成し積極的に活用する。	児童・保護者アンケート結果を見てもこの取組が子どもたちの学びにとってプラスになっていることがよく分かる。地域も保護者もこの地域への子どもたちの理解と愛着の上に立った将来の夢づくりを応援していきたい。 また、キャリア教育については、様々な機会に学びの原動力として積極的に指導いただいていることが分かった。
	学習指導の充実	・スキルタイムの充実 ・教科等の授業づくりの工夫と改善 ・家庭学習の習慣づくりと主体性の育成	B	・朝のスキルタイムの中で計算領域を中心に基礎基本の定着を図り、「できた」「わかった」の達成感や「やってよかった」の成就感を積み重ねる。 ・少人数指導などの複数指導体制を組み、各教科等の指導の中で個に応じた指導の充実を図り、確かな学力の定着を目指す。 ・「できる」「わかる」「できそう」の学ぶ喜びが得られ、「自分でやってみよう」と主体性の獲得を目指す授業づくりを工夫し、教職員の研修を行う中で指導力の向上を図る。 ・児童の良さや伸びを認め、自己肯定感を育み、学び続けるのに必要な素地を築く。 ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習通信」を活用して家庭と連携し、自ら進んで学び続ける子を育てる。「ノート紹介」などを通して主体的な取組を肯定的に評価し、児童の自信につなぐ。 ・「ひょうごがんばりタイム」を実施し、地域講師と学校とが連携し、児童の学習課題等の共通理解を図りながら、学力の向上につなぐ。	子どもたちの学力保障を第一に考え、教育課程や指導体制、指導方法を考えられている。特に子どもたち一人ひとりの課題に沿った指導を充実させていかれようとしている点は、大切であると感じる。特に複数体制で指導されていることについては、子どもたちのアンケート結果からも多くの大人に見てもらえる安心感があると思う。 ４月から始まる学校運営協議会制度においては、これらの学びの充実に向けて、家庭や地域の協力が一層得られるようにしていかれることを望む。
課題教育	共生社会の中で豊かな心を持ち、たくましく生きる力の育成	・道徳・人権教育の充実 ・家庭対話等による保護者・家庭との連携 ・認定こども園と小学校、小学校と中学校の交流活動の実施	A	・自己肯定感を育めるよう、自他を大切にする道徳教育と人権教育を進める。 ・家庭対話の日（親子人権学習）の取組や人権通信「南風」の発信、教育相談日の設定などを通じて、保護者・家庭と共に人権意識を醸成する。 ・異年齢集団による縦割り班活動や多様な体験活動、認定こども園と小学校、小学校と中学校の交流活動等により、相手を思いやる心を養う。	１園１校の強みをいかして認定こども園と小学校のスムーズな接続を目指してほしい。また、同じように不登校等が気になる中学校に向けて進学先との連携も大切にしてほしい。 人権意識の醸成に向けては、家庭の協力が不可欠である。家庭対話の日を設定しないでも家庭において多様な会話がなされ、人権意識の基が家庭で築かれることを願う。
	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	・個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づく支援 ・保護者への理解啓発 ・認定こども園、小学校、中学校が連携した教育支援体制作り	A	・児童の実態を把握し、支援体制のあり方や児童の変容を共通理解し、個に応じた支援を行う。 ・行事等の機会や生活の中で必要な場面をとらえ、児童と保護者に啓発を行う。 ・基礎的環境整備と合理的配慮に基づくサポートファイルや個別の指導計画を作成し、学校職員と保護者、関係機関等との共通理解を図る。 ・認定こども園・小・中学校の連携や関係機関及び専門機関等との連携を図り、保護者の意向を大切にしながら適切な就学支援を行う。	特別支援教育については、一人ひとりのニーズに対して細やかに支援をされていることがよく分かった。特に、肢体不自由学級や病弱学級においては、環境整備も大切に配慮事項となっている。よりよい環境づくりに向けて取り組んでいただきたい。 また、特別支援教育についての啓発の重要性も理解できた。今後、様々な機会に理解が深まるように進めてほしい。

※領域（３領域）　　学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備　等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善　　等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育　等

※達成状況　　A：優れている　　B：おおむね良好　　C：やや改善　　D：要改善

自己評価の実施方法についての評価

児童・保護者アンケートを１学期末と２学期末の年間２回実施し、全職員の自己評価とあわせた分析を行っている。過去３年間の経年比較もされていることから学校の強みや弱みをしっかりと把握していると感じる。

今後は、この強みをいかして不登校などの南小学校の課題解決に向けて組織で取り組んでいかれることを望む。

学校関係者評価のまとめ

学校・家庭・地域の協働体制については、今後の学校運営協議会制度で更に充実させてほしい。なかでもふるさと教育を大切にした教育課程が編成されており、その情報も校報等で積極的に公開していると感じる。

また、児童一人ひとりの教育的ニーズに応じ、「わかった・できた」が実感できる授業づくりを積極的に進め成果を上げている。「いじめ・暴力ゼロ」を含めた人権文化の醸成に向け家庭・地域も協力していきたい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

「地域・家庭とともに自己肯定感、自己有用感の育成を図る」「ふるさと教育を軸にキャリア教育を充実させる」「授業改善により誰一人も見捨てない教育を展開する」を基軸に教育活動を展開してきた。学びの原動力であるキャリア教育や「夢」・「目標」を大切に、一人ひとりの課題を的確に把握し、それに主体的に取り組ませ、過程を評価することで自己肯定感、自己有用感の育成を図ってきた。今後もこの方向性を大切に、本校の課題解決にあたりたい。

平成３１年　３月　１日

学校名　丹波市立南小学校

校長名　　谷　口　千　尋　　印